

医学部受験のいま

近年、医学部を志望する受験生が年々増加しており、2014年度の私立大学医学部受験生は10万4140人を記録し、これは前年比113.6%と、高い伸び率を示しています。

本日は、受験の最前線で活躍する講師・可児先生と、医学部受験を経験した現役医大生の内山さんに難易度が高まっている最新の医学部受験について教えて頂きます。



左 内山 桂一 Uchiyama Keiichi

藤田保健衛生大学 医学部医学科3年生
要知県出身。脳外科医の素晴らしい手技を見て医師という職業に憧れを抱くように。自分の成績や進路を客観的にみてもらいたいと思いメディカルラボに入学。現在は学業に忙しい日々を送りながら、チューターとして受験生をサポート。

右 可児 良友 Kani Yoshitomo

医系専門予備校メディカルラボ 本部教務統括
1991年より大手予備校で指導に携わり、豊富な経験をもとにマンツーマン授業で合格に導く医学部受験のメソッドを構築。カリキュラム監修や講師・スタッフを統括する本部教務統括、生物講師としても医学部受験の最前線で活躍中。

私立大学医学部では、総志願者がついに10万人を突破！
いまや情報戦とも言われる医学部入試。合格に必要なコトとは。

— 始めに現在の医学部を取り巻く状況を教えてください。

可児 ● まずお話ししておきたいのが、2008年度以降医学部の定員が増え続けているということですね。地域での医師不足解消に対する国の施策に伴って、2007年度には7625人だった医学部の総定員が、2011年度には8923人、2014年度は9069人に増え、2015年度には65人増員の9134人になりました。この傾向は2019年度まで続くことが決まっています。ここ数年は地域枠や県外地域枠が導入され、この地域枠で定員を増やしている大学が多いようです。

— 医学部の受験者も増えているようですね。

可児 ● 一般的な企業に就職しても安心できる時代ではないという現状に加え、大震災などの影響で人の役に立つ仕事に就きたいという学生や、大学選びの際に資格取得を考える安定志向の学生が増えています。そこで優秀な学生であれば、医師を目指そうと思うわけです。

— 医学部受験の現状はどうなっていますか？

可児 ● 定員が増えているとは言え、医学部は競争倍率が高く、極めてレベルも高い。ますます医学部受験が難しくなっている。他の学部を受験する以上に勉強しないと合格できません。医学部受験には、筆記試験＋小論文、さらに面接は必須。幅広く高いレベルの学習をやらなくては行けない、その強い意志と覚悟が必要です。

— では内山さん、実際の受験勉強はいかがでしたか？

内山 ● 受験勉強は、単純な暗記だったり、興味がないことに對してもテクニックを身につけなくてはならないので、そこが大変だと感じていました。でも予備校の授業では、一つひとつの理論を噛み砕いて教えてくださったので、知的好奇心が刺激され、勉強がおもしろいと思えるようになりました。

— 苦手なところはどのように克服しましたか？

内山 ● 数学の点数が伸び悩んだ時期がありました。当時は、たくさん問題を解くことにこだわらず、本質的な部分を時間をかけて解くということができていなかったんですね。自身の弱点を見抜いた先生は、一つの問題に対してじっくり考える時間を作れるように、絶妙なタイミングで出題。強制的に時間をかけて問題を考えることで、本質的な部分を理解できるようになり、得点力がアップしました。

— モチベーションはどのように維持しましたか？

内山 ● 現役の医学部生であるチューターの存在は大きかったですね。実際の大学の様子や勉強の話は興味深くて、僕ならこん

なことをしてみたい、そう考えるだけでわくわくしました。まだ見ぬ医学部への憧れと期待感でいっぱい。勉強へのモチベーションも上がりました。

— 医系専門予備校はどうして必要だと思われましたか？

可児 ● 特に私立大学の場合は、大学ごとに個性的な問題が多く、個別対策が必要になってきます。一般的な予備校での総合的な勉強では、各々の大学に対する個別対応まではできません。メディカルラボは、マンツーマン指導での個別対策ができるというのが大きなメリットです。また、コミュニケーション能力や倫理観、医師に必要な適性などを重要視される小論文や面接対策もしっかりサポートします。

内山 ● 僕自身もやはり大学独自の傾向をつかんでおくことの大切さを実感しました。メディカルラボには、ただ過去問を解くだけでは身につかない大学別の対策とノウハウ、実際に受験を経験した先輩の声があります。これこそが受験生にとって有用な情報です。

— メディカルラボでの指導はどのように行われていますか？

可児 ● メディカルラボでは、全ての授業がマンツーマンです。客観的に生徒の学力を把握して短期間で弱点を克服できるよう指導します。なかなか自分一人で勉強できないという生徒には、勉強のやり方まで教えて、宿題を出して、自習時間も管理します。また、受験する大学に合わせて個別にカリキュラムを作って無駄のない学習を実現しています。さらに生徒がどのようなタイプなのかを把握して、その特長を活かせる受験校を選ぶマッチング指導が可能。生徒一人ひとりと向き合う、マンツーマン授業だからこそできることです。

— 最後に医学部を目指す人にアドバイスをお願いします。

内山 ● 医学部を目指すなら、実際に医師の仕事を見ておくべきだと思います。医師とはどういう仕事か、どうして医師になりたいのかを整理した上で受験に挑んでほしいですね。

可児 ● スタート時の学力は関係ありません。苦手な教科があっても、勉強のやり方をつかむことで、伸びる生徒はたくさんいます。夢さえあれば、諦めなければ合格できます。医学部に行きたいという気持ちを大事にして、諦めずに頑張ってください。



医学部教育の現状や各大学の動向など、最新情報の収集は医学部受験ラボで。
<http://www.igakubujuken.jp/>

指導力・情報力・チーム力で、医学部合格へ導く

医系専門予備校
メディカルラボ
Medical System Preparatory School Medical Lab

全国16校舎のネットワーク ● 札幌校・仙台校・さいたま校・千葉津田沼校
東京お茶の水校・東京立川校・横浜校・名古屋校・金沢校・京都校・
大阪梅田校・大阪心斎橋校・神戸校・岡山校・広島校・福岡校

<http://www.medical-labo.com/>

詳しくは

検索